

パブリックコメントに関する提出意見とそれに対する市の考え方

<b>案件名</b>	<b>矢板市生涯学習推進計画6期計画（案）について</b>
------------	-------------------------------

今回公表しました計画等（案）に対する貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。お寄せいただいたご意見を十分検討した結果、それに対する市の考え方は、次のとおりです。なお、類似の意見については、内容ごとにまとめさせていただきました。

項 目	意見の内容	意見に対する考え方
1 表現・用語について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「道しるべ」、「目指す市民の姿」などはあくまで市が考えた理想的な市民であり、多様性を重んじる現代にはすぐわない表現はやめるべき。</li> <li>・「めざす市民の姿」について、学びの在り方を行政が規定しており、表現の修正を望みます。</li> <li>・「変化の激しい時代への対応」「社会変化に対応できる人材育成」「めざす市民の姿」「偉人の言葉」といった記述が外発的な人材育成に重きが置かれている。主体は市民であり、行政はその学びを支援する立場であることを記述すべきと思う。</li> <li>・第2章以降、キーワード（単語だけ）を文頭に置いたことで、矢板市がどのように学びを支援するのか一目で分かりにくい。具体的な事例、行政の取組等示すことで計画の理解が深まると考える。</li> <li>・第2章「学びの土台をつくる取組」と、第1章の「学びの土台づくりの施策目標」の対応関係が分かりにくく、取組が第1章に掲げる目標のみに限定されているため全体像が把握しにくい。</li> <li>・「偉人の言葉」を多用したことで、生</li> </ul>	<p>本計画は、「わかりやすく」「伝わりやすく」「行動につながる」計画となるよう、留意して作成いたしました。</p> <p>生涯学習関係団体やボランティア活動者、関係機関の代表者等で構成された生涯学習推進計画策定委員会や生涯学習推進本部会議、幹事会等で表現や用語について多面的・多角的に精査いたしましたので、計画（案）のとおりといたします。</p>

	<p>涯学習が親しみにくく、心理的な負担を感じる。矢板市と関係のない偉人ではなく、矢板市ゆかりの人物や言葉の引用を検討してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第6章「学びで人を集める」は、市の事業が集団を対象としていることを踏まえ、「学びの好循環」としてはどうか。</li> <li>・第6章の意図が伝わるような説明の補足と、具体例を示した方が理解しやすい。</li> <li>・市民の意識調査（アンケート結果）の記載がなく、市民ニーズに基づいて策定されているのかわかりにくい。市民ニーズ・要望を整理して示してはどうか。</li> <li>・全体的な文章の印象として市から無知な市民へ教え諭す、といった印象を受ける。また、第2章の概要「手だて」という言葉は、指導する側からされる側への一方向的な働きかけや上下関係を想起させるので表現を修正すべき。</li> </ul>	
<p>2 個人の学びの尊重について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独学（自学）が中心であり、通勤時間や休日の短時間を活用した学びも生涯学習の一環として位置づけ、時間的制約のある人のニーズに応える具体的な取組も加えてほしい。</li> <li>・社会人など時間的制約のある人のニーズに応える具体的な取組も加えてほしい。</li> </ul>	<p>主体的な「個人の学び」は生涯学習の基本となるものであります。</p> <p>2ページ「4基本理念と目標」の2行目の冒頭に「個人の学びを尊重し、」を追記いたします。</p>
<p>3 環境整備について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「居場所としての機能充実（子どもの居場所づくり）」について、日常的な「第3の居場所」として、郷土資料館や図書館、体育館等の機能が学区内の身近な場所へ出向く（移動する）環境づくりも整備してほしい。</li> <li>・第2章の「環境整備」について、郷土資料館・図書館にある地域の価値ある資料を活用してほしい。</li> </ul>	<p>いただいた御意見につきましては、整備の際の参考とさせていただきます、計画（案）のとおりいたします。</p>

4 成果の測定と検証 について	<p>・意欲や自分ゴト（主体性や意識）を重視しているが、目に見えず数値で測りきれない成果の測定方法と検証が不明確なので、参加者の「振り返り」を含むアンケートの実施・検証し、PDCAサイクルを回す仕組みを検討することを明示すべき。</p>	<p>講座や研修等の実施の際の振り返りの参考とさせていただき、計画（案）のとおりといたします。</p>
5 目的の共有・達成に ついて	<p>・第3章において、限られた人員や予算、参加者の分散を踏まえると、企画の数を増やすよりも、既存の講座やボランティアの目的を共有・達成できる柔軟な企画や進行を検討してほしい。</p>	<p>参加者が、目的を共有・達成できるような企画や運営とするためのポイントとして「得意・好き・興味」「自分事に」「選べる余地」「成果の実感」をキーワード（基本施策）として、構成されておりますので、計画（案）のとおりといたします。</p>
6 「問いの共有」につ いて	<p>・講座だけでなくボランティア活動においても、参加者が小さな自己実現や課題（ゴール）を共有し、それを尊重し合える仕組みを整備することが、協働や主体性につながるよう、計画に反映してほしい。</p>	<p>6ページの記載のとおり、ボランティア活動も貴重な学びととらえております。よって、2ページに学びの好循環について記載しており、計画に反映しておりますので、計画（案）のとおりといたします。</p>
7 SNSの活用につ いて	<p>・イベントの周知・宣伝だけでなく、参加していない市民にも学びと共感や関心が届くよう、SNSを活用し、人と人との交流を自然に育て、新たな参加へとつながっていくことを期待する。</p>	<p>20ページ「事例紹介5」において、インスタグラムを用いた広報周知について「多様な参加者の一員として、みんなでつくりあげる雰囲気味わう」など、共感や関心を呼びこむ事例を記載しておりますので、計画（案）のとおりといたします。</p>
8 読書活動の推進に ついて	<p>・読書を単なる情報取得にとどめず、思考力や理解力など、どのような力を育むものか価値を示し企画に反映すべきと思う。</p> <p>・関心度や読書状況に応じた段階的なアプローチを整理し、地域（人・こと・もの）へとつなぐ視点が必要と考える。</p>	<p>読書には情報取得以外にも様々な効力があると考えております。そのために全国的な課題である「読書離れ」の現状に対して重点的に取り組んでまいりますので、計画（案）のとおりといたします。</p>
<b>意見総数</b>	<b>20 件</b>	